MEIJO Q&A 01

外国語学部 国際英語学科

Q. 異文化を深く学ぶってどういうこと？

異文化を実際に体験していくことで世界の見え方が変わっていきます。

オバケが教えてくれる その社会の表と裏側。

みなさんはオバケを信じますか？日本に限らずオバケは世界中に存在します。このオバケ＝見えない存在、よくわからない存在が、いろいろな事を教えてくれます。私の専門は東南アジアの文化人類学、特にタイ王国東北部に暮らすラオ族の宗教です。そこでは、「ピー」と呼ばれる精霊が信仰されています。このピーは目で見ることができないので、実際はピーの専門家である呪術師が研究対象になります。ピーや呪術師への信仰の裏には表立って語られない人々の葛藤とか、複雑な人間関係が存在しています。だから、社会の表層だけでは気づけない思考や人々の生活の深みを、ピーやオバケのような不確かなものを通すことによって知ることができるのです。

フィールドワークでわかる 異文化を学ぶ本当の理由。

異文化を理解するのに最も大切なのは、現地の人と直接話をすることです。フィールドワークでは実際に村落に入り、現地の人とともに生活して、暮らしや考え方についてのインタビューを重ねます。そこで得られる人々の“語り”は生々しい新鮮さに満ちています。さらに、匂いや砂埃、暑さ寒さなど、そこに身を置いてこそわかる皮膚感覚も重要な情報です。フィールドワークでは、英語や現地の言葉を使いながら、現地の人とコミュニケーションを図ります。言語というツールを使い、カルチャーショックを覚えながらも、多様な価値観を体感することで、それまで当たり前だと思っていた日本文化についても客観視することができます。コトバとカラダを通して、異文化を学びながら感じることで、新しい価値観を身に付けて欲しいですね。

津村 文彦 先生

PROFILE

『インディ・ジョーンズ』が大好きで、最初は考古学をやろうと思っていた津村先生。しかし、実際に発掘作業などをしていると、自分が興味を持てるのは“モノ”よりも“人間”だと実感したそうです。モットーは「わからなさを大切に」。わからないことをそのまま受け入れられれば、社会の現実も見えてくるという。

学生時代のマイブーム

旅行が好きで、学生時代はイースター島まで行ってしまいました。

旅行が好きでエジプト、ギリシャ、トルコなどいろんなところに行きましたが、考古学への憧れが強かったこともあり、イースター島まで出かけてしまいました。小さな島だけど2週間ぐらい滞在し、スペイン語を教わったり、洞窟探検をしたり、生涯の思い出となる時間です。